

龍王峡

龍王峡は、鬼怒川沿いの川治温泉と鬼怒川温泉という2つの温泉郷の間に約6kmにわたって続いています。近辺の山々は、およそ2200万年前に海底火山噴火が発生した際に形成されました。長い年月をかけて、川の流れと水中を転がる石の力が地形を刻んだ結果、現在の峡谷の形が削り出されました。龍王という漢字は dragon king という意味で、この名前は、谷の曲がりくねった形状が吉祥とされる昇り竜に似ているとされることから1950年に付けられました。

龍王峡の川沿いに続く自然研究路から見える岩石は、この渓谷の誕生に貢献した3つの異なる地質現象を物語っています。上流部の「紫龍」の岩石は、その大部分が噴火の初期段階にできる紫がかった安山岩です。中流部の「青龍」では、岩石は主に火山口から火山灰や岩石片が噴出する際にできる緑色凝灰岩です。極度に高温の火山灰が岩石片と熔融し、それに含まれる銅によって岩石は青みがかった緑色になります。下流部の「白龍」の岩石は、流紋岩という細かい粒子と白っぽい見た目が特徴のシリカを多く含む火山岩が大半を占めます。

川の流れに沿って渓谷を下っていくと、3つの各区間で、浸食や岩の崩落によって形成された珍しい地形がみられます。普段は流れが穏やかに見える鬼怒川ですが、「怒った鬼（a mythical demon）」を意味するその名称は、大雨が降ったときの水流の激しさと、ゴロゴロと転がる石が立て

る音に由来します。

注意：自然研究路では、夏の時季を中心に 4 月から 11 月にかけてヤマビルがよくみられます。靴

にヒルよけスプレーをかけることを強くおすすめします。